

日本大百科全書

ENCYCLOPEDIA
NIPPONICA
2001

8
けーこうの

小学館



日本大百科全書 9

©SHOGAKUKAN 1986
昭和61年5月1日 初版第一刷発行
定価 7,800円

編集著作
出版者 相賀 徹夫

発行所 小学館

郵便番号 101
東京都千代田区一ツ橋2-3-1
振替 東京8-200番
電話 編集・東京03-230-5620
業務・東京03-230-5333
販売・東京03-230-5739

印刷所 凸版印刷株式会社

本文
(特抄百科用紙) 王子製紙株式会社

口絵
(特抄アート紙) 三菱製紙株式会社

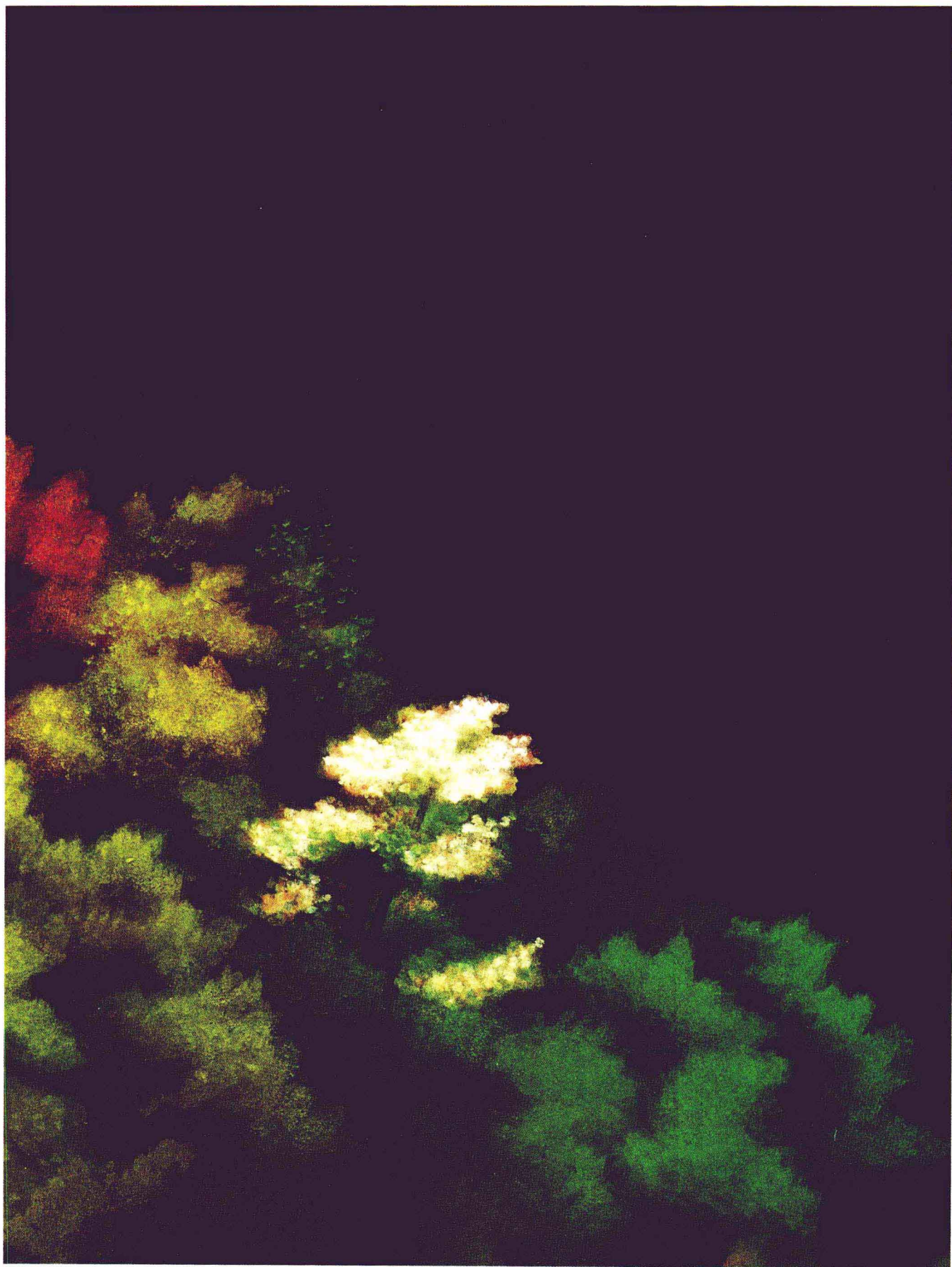
表紙
(特製クロス) ダイニック株式会社

製本 凸版印刷株式会社
若林製本株式会社

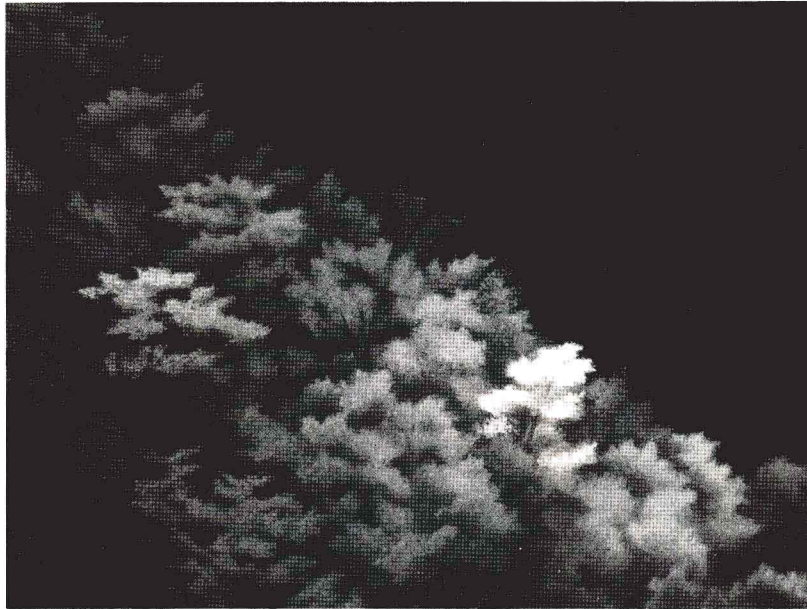
- * 本書に掲載した日本関係地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図、5万分の1地形図、20万分の1地勢図および2万5千分の1土地利用図を使用したものです。
- * 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら、おとりかえいたします。
- * 本書の内容の一部または全部を、無断で複写複製(コピー)することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出版者の権利の侵害となりますので、その場合はあらかじめ小社あて許諾を求めてください。

Printed in Japan

ISBN4-09-526009-2



東山魁夷『谿若葉』部分



東山魁夷画『谿若葉』
1976年（昭和51）50.0×65.0cm

暗い杉の谷を背景に、
色とりどりの若葉が明るく匂う。
すぐ近くで、
うぐいすの澄んだ囁り。

（東山魁夷・文）

景觀の調和

わたしの専門の地理学にかかわることであるが、景觀は、ドイツにおいて発達した概念の一つである。学者によつては、これを景域と訳するが、ここでは辻村太郎先生に従つて景觀とよび、形態、構造、生態などに發展を志す概念とする。景觀は風景とは異なり、景觀の調和をその成立、存在の基本から尋ねる。また、田園風景に対して、都市風景をタウン・スケープとよぶことも行われている。

サウアー博士（カリフォルニア大学）は、アメリカにおける数少ない文化地理学、歴史地理学の指導者であったが、「景觀の形態学」を論じ、文化景觀の成立を自然景觀との関係から解釈した。人間の生産活動や生活様式などが自然を変える、多様な道を説いた。純粹な自然景觀は今日ではほとんど見られなくなり、多くの自然景觀は二次的な自然である。たとえば亜熱帯のサバンナは、気候学的には気温と降水量の一定の数値によつて區別されるが、地球上に広くあるサバンナは、人為的放火、焼畑、開墾、過度な耕作などによつて生じたものである。過度な開発や自然の破壊は、不調和な景觀として斥けられるが、その限度は決定しがたい。降水の不足が旱魃の原因となる場合も、土壌、水利、社会的要因などが関係するからである。人工的構築物は自然の破壊を進める条件として問題となるが、町並みや水利の整った亜熱帯の疎林などは、時には芸術的作品としても眺められるであろう。

ケルン市（西ドイツ）の西方にある褐炭炭田の開発は、表層の土壌を除去し、これを利用して丘を積み、池沼をつくり、広葉樹の植林を行い、現在では小動物の生息場所ともなっている。計画的な村落の移転など景觀改造が進んでいる。オランダのポルダーは、海を湖水に改め、中心集落の建設、定住などによつて新しい農場が生まれている。中心地には小ぎれいなレストラン、器械の修理工場、宗派別の教会、カトリックとプロテスタントそれぞれの銀行が立地している。これらの都市的土地利用は、都市であることが整った景觀を出現した。

廃棄物の処理が景觀の破壊をもたらし、環境の維持や保全をおびやかす例も多い。人間は破壊の役者であるとともに、その知恵は、新しい環境を生む力をもっている。一九六四年にウェールズで見学したG・G・揚水式発電所は、日本においても建設が始まった施設であったが、内陸の人工湖につくられたT原子力発電所は、新しい実験であった。白垂の建造物は、緑の国立公園の中に工業化の施設を配置する実験をあえて試みたのであった。建設物は節度をもつて風景の枠の中に納められ、冷却水は十日周期で循環する設計である。

オーストラリアの首都キャンベラを囲む丘の上に、電力の施設が突出してつくられたことに市民の強い反対があった。大内山の緑地に刺された一針が放置されている東京都民の、景觀と環境の保全についての良識が、欧米からのウサギ小屋論を斥けるに十分と思われるであろうか。

木内信藏

（木内信藏）

装 丁

亀倉雄策

本扉／書

青山杉雨^{さくろう}
(連作書体のうち、六朝時代^{りくてう}の写経文字)

巻頭口絵

東山魁夷^{けいゐ}

本文五十音題字

木元壽美江

こうは

侯馬 こうば ホウマー 中国、山西省南西部の市。臨汾地区に属する。黄河の支流汾水の下流平野の中心都市の一つで、同蒲鉄道が通り、山西省と陝西省を結ぶ要地である。明・清代には交通路上の鎮市であった。一九五八年に、曲沃、新絳両県とその他の県の一部を合して侯馬市とし、一時旧に復したが、七一年曲沃県から分離して市となった。春秋時代の晋国の中心地域で、国都の置かれた新田はここにあり、その都城や墓地などの遺跡が発掘され、「侯馬盟書」をはじめとする多くの資料が発見されている。

向 拝 こうはい 日本建築において、建物の前面に屋根を突き出した部分。近世には御拝とも書かれたので、「こはい」とよぶ人も多い。本来は階隠のためにつくられたもので、屋根は本体から葺下ろし、絶破風をつける。近世の向拝では正面に唐破風をつけ飾るものもある。向拝は出入口にあたるので、本体より飾る場合が多く、頭貫を虹梁形にし木鼻も彫刻をつけ、頭貫上に臺股を置く。建物の背面にも屋根を突き出すことがあるが、その場合は区別して後拝と書くこともある。向拝にかけられた垂木を打越垂木とよび、向拝柱列は繫虹梁や手扶で緊結される。

光 背 こうはい 仏像の背後にあって、仏身から発する光明を表現したもの。後光、御光ともいう。仏の超人性を形容した三十二相のなかに、仏陀の額の中央にある白く細い巻き毛から光を発する白毫光と、仏体が金色でその光が周囲に満ち満ちていることが説かれている。この白毫光が頭光の、仏身金色の相が身光のもととなった。インドで仏像がつくられた早い時期

こうばい

には、無文の円板状か、その縁に円弧（光明の象徴）を連ねた簡単な頭光だけのものがあったが、その後、全体が楕円状の身光形のものも生まれ、表面に花や唐草を表した文様を付するようになった。中国に入ると、その形式や文様はさらに複雑になり、頭光・身光をあわせた二重円光背を中心に、その周囲に火焰を表して、尖端のところが宝珠形の光背をつくりだし、また飛天・化仏などを付した変化のある発達を遂げている。光背は儀軌（仏の供養などの修法に関する規則）のうえからは莊嚴具ではないが、造像法のうえからは莊嚴具に含めて考えられている。↓莊嚴具

こうした光背はキリスト教美術でも行われており、「聖なる存在」の象徴として頭部に丸い輪または板状の光を付する。これは二重の三日月とよばれるが、キリストや聖母のようにとくに聖性を示すべき場合には、全身を包んだ楕円状の身光オールド・アノール（*auréole*）が付加されることがある。

交 配 こうはい crossing, mating 二個体間で受粉あるいは受精を行うこと。交配は、両親の遺伝子型の異同は問題とせず用いるが、とくに遺伝子型の異なる二個体間の交配は交雑とよばれる。

家畜の交配は、まず育種の目標を確立し、それにふさわしい選抜を行い、その目標にかなった方法で行われる。したがって育種目標に依じて交配の仕方も異なる。遺伝的に遠く、相異なるものの長所をあわせもった雑種をつくりたい場合、すなわち特定形質の付与、あるいは両親のいずれかよりも優れた一代雑種（ F_1 ）をつくる雑種強勢を期待したい場合には、属を異にするものどうしの交配である属間交配、または同じ属に入るが種を異にする種間交配を行う。これらの場合、多くは雌雄とも、またはどちらか一方（哺乳類では雄、鳥類では雌）が不妊のため F_1 のみしか得られない。属間交配の実例としては、ウシとアメリカバイソン（アメリカヤギユウ）の F_1 でダニ熱に強いカタロ、アメリカバリエーションの F_1 で早熟早肥の土着鴨などがある。種間交配では、雌ウマと雄ロバの F_1 で、強健で耐久力があり粗食、少食で役畜として賞用されているラバがある。

異品種間の交配を品種間交配といい、単に交雑ともいわれる。交雑によってできた子を交雑種または雑種という。この交配は、一方の品種

の特定形質の他方への付与、二つ以上の品種のもつ相異なる長所を有する新品種の作出、雑種強勢を期待する場合などに用いられる。例としては、イギリス在来馬とアラブなど東洋種のウマとの交配によってできたサラブレッド、ヒツジのメリノーとイギリス長毛種などの交雑によってつくられた毛肉兼用種のコリデールがある。また、現在飼っている品種をほかのより望ましい品種に取り替えたいが経済的理由などで一挙にできない場合には、数代重ねて交配しその品種に近づける累進交配を行う。

一方、非常に優れた形質を遺伝的に固定したい場合、とくに血縁関係にある個体どうしの交配である近親交配が行われる。この場合、能力の飛躍的向上はみられないが、遺伝子のホモ化（可能性がもつとも高く、その結果好ましくない劣性遺伝形質もホモ化され表現型に出ること）もある。劣性遺伝子の摘発にも適した方法である。このように優れた個体が出現し、その形質集団を作出維持したいとき、その個体と同一の系統内での選抜による交配、すなわち系統交配が行われる。必然的にかんがりの近親交配を伴うが、この方法によりホモ化され確立された形質集団を近交系という。↓育種（西田惇子）

勾 配 こうはい (1) 数学用語 傾斜面の傾きを示す度合いを勾配という。水平面と傾斜面があるとき、直角三角形をその斜線が傾斜面に沿うようにとり、勾配を、底辺に対する垂線の比で表す。すなわち、斜線と底辺のなす角の正接（タンジェント）が勾配である。一次関数のグラフは直線であるが、その直線の横軸に対する

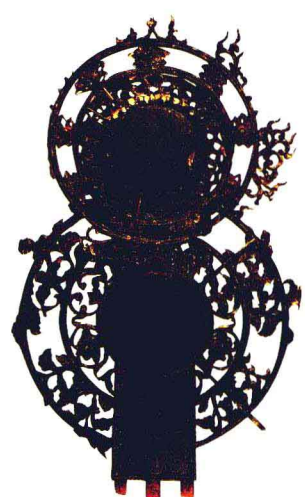
勾配は一次関数の一次の項の係数である。これをその直線の勾配という。この場合、勾配のこを傾きともいう。

(2) 鉄道では、線路の勾配を、その坂が水平面となす角の正接の $1/100$ 倍で表している。つまり、勾配が六七ということは一メートルについて六七上がることである。また、屋根の勾配は一尺について立ち上がり何寸で表す。六寸勾配といえは勾配が 0.6 、角度にして約 31 度である。

(3) 物理学用語 位置に対する物理量の変化率のことを勾配という。たとえば温度の勾配があるとき、温度の高い場所から温度の低い場所へ熱の移動がおこる。これが熱伝導である。物体内の等温面に垂直な方向に移動する熱の量は、温度勾配に比例する。この場合の比例定数は熱伝導率という。熱伝導率は、厚さ一層の板の両面の温度差が一度 C のとき、一平方センチメートルに毎秒流れる熱量をワットで表したもので、銀では 400 、水で $5/6$ 、常温の空気では 0.024 程度である。

川底の流れは小さいが、川底から離れると流れが大きくなる。このように流体の速度に勾配があると、流れの速さを一様にしてしまう力が現れる。この性質を粘性という。この場合の力も速度の勾配に比例する。

（中田 一）



光背
〔上〕仏像の光背。
宝相華文透彫光背
奈良時代 木造漆
箔 高111cm 重
文 奈良 法隆寺
〔下〕キリスト教美
術の光背。ベネツ
ツォ・ゴツツォリ
『聖母子と聖人』
1452年ごろ 34.3
×54.7cm ウィー
ン美術史博物館



こうばい織 こうばいおり 勾配織、高配織、紅梅織とも書く。織物組織の経緯、あるいは経緯の両方に、地の糸よりも太い糸か、または数本の糸を引きそろえにした糸を、一定の間隔を置いて織り込んでいき、その部分を浮き上げさせた織物。一般に絹織物を勾配にするときには、太い絹糸が、細糸が勾配糸に使われる。種類としては、勾配富士絹、勾配甲斐絹、勾配タフタなどがある。現在では、類似組織としてのデイミティ・クロス dinity cloth がよく使われている。

後配株 こうはいかぶ 利益配当などにつき、他の種類の株式よりも劣った取扱いを受ける株式。劣後株ともいう。↓株式

購買管理 こうばいかんり 企業がその生産活動に必要な原材料、部品、工具、その他の資材を、必要な時期に必要な数量だけ、経済的かつ能率的に購買するために行う体系的施策をいう。広義には、生産活動に必要な設備・機械等の大規模・固定的生産手段の購入・調達をも含めることもあるが、一般には、上述のような流動的生産資材の購買に限定している。

購買管理の内容は、購買計画、購買組織、購買統制の三つの領域からなっている。購買計画とは、製品の設計図、仕様書、生産計画などを素材に必要生産資材を洗い出し、在庫計画と調整のうえ、購買の品目、時期、購入先を予定することである。これには、購買市場の実態、とくに価格の分析（原価分析）と価値分析（VA）が不可欠である。VAは、必要な機能を最低のコストで得るため、機能とコストのつり合いを研究し、設計や仕様の変更、代替品の検討、製造方法や購入先の吟味などを組織的に行う管理手法である。

次に購買管理では、購買組織について、集中購買組織をとるか分散購買組織をとるかが重要な課題となる。前者は、本社に購買専門の担当組織を設けて各事業所の必要生産資材をすべてここで購入するような方法であり、後者は、事業所などがそれぞれ所要生産資材を購入する方法である。購買統制は、適正在庫の維持に関する在庫管理と、購買予算の差異分析を通じて購買活動の効率を高めることを主内容とする。↓価値分析 ↓在庫管理

広背筋 こうはいきん 腰部と胸部の外側から後下半部にかけて広がる三角形の板状筋で、古い解剖学名で闊背筋とよんだ。底辺部にあた

る部分は下位六個の胸椎棘突起と全腰椎の棘突起、および腸骨稜の後内側部につき（起始部）、頂点にあたる部分は腋窩を通り抜けて上腕骨内側部の小結節につく（停止部）。図↓人体

広背筋は背部の浅層筋とされるが、本来は上肢の固有筋である。この筋は上腕を内転させ、後内方に引く作用のほか、上腕を多少内旋させる作用をもつ。背中に手を回すとき、肘門部に手をやる時、また水泳のクロールで水をかくときにこの筋が働く。寛骨の一部を構成する腸骨のすぐ上方で、広背筋の外側下縁および外腹斜筋の後縁によって囲まれてできる三角形の間隙を腰三角とよぶが、ここは後腹壁の抵抗の弱い部位であるため、腰ヘルニアをおこすことがある。また、広背筋の上縁、肩甲骨の内側縁および僧帽筋の外側縁に囲まれてできる三角形の間隙は聴診三角とよび、上腕をあげる時と第六肋骨と第七肋骨との肋間隙が皮下組織のすぐ下側になるため、内臓器官の状態の聴診に用いられる。〈嶋井和世〉

購買婚 こうばいこん purchase marriage 従来、嫁をめとるに際し、男性側から女性側に「婚資」bridewealthとして金品を譲渡しなければならぬ場合、その結婚を購買婚と称したことがあった。しかし、現在の文化人類学においては一般に、購買婚の名称は不適当とされている。アフリカの牧畜民を例にとると、花婿またはその家族は結婚時に一定数の牛を花嫁の親族に贈る。これはかなりの数に上り、男の親族は頭数をそろえるのに協力しなければならぬ。女の側は獲得した牛を自分たちの息子の結婚時に役立てることができるが、ひとたび離婚となれば、もらった同じ牛を返さねばならない。この婚資の譲渡は結婚の継続の保証であり、また花嫁の労働や性的関係などを支配する権利の移動の代償と考えられる。婚資交渉での駆け引きは商品に対する価格交渉を連想させる場合もあるが、婚資は購買において支払われる代価とは性質を異にしている。商取引では代価を支払いによってその交換行為が完結し、商品を引き換えに転売することも可能であるが、婚姻における交換においては転売は不可能だからである。したがって、この用語は文化人類学では現在ほとんど使われない。↓婚資

後背湿地 こうはいしち 川の氾濫原上で自然堤防の背後にできる沼沢性の低湿地。洪水時

に流路からあふれ出た水は流路の両側に広がるが、減水が始まると自然堤防に妨げられて、元の流路内に戻れずに沼や湿地となる。平野部では後背湿地が水田化し、それよりやや地盤が高い自然堤防上に集落や畑地が立地するのが普通である。↓自然堤防

購買時点広告 こうばいじてんこうこく OP広告

後背地 こうはいち ヒンターランド hinterland の訳語。本来は港の果たず経済的機能の広がる地域をよぶことに始まったが、現在は語義が拡大されて、港のみならず大都市の果たず経済的機能のほか、社会的諸機能（通勤、通学、買い物、通院など）の及ぶ範囲、すなわち都市圏をも含めていうようになっていく。港や都市とそれらの後背地との関係は相互規定的であり、港や都市の活動が発覚となれば、それに伴って後背地は拡大される。後背地はまた港や都市を経済的、社会的に支える培養的機能を果たすので、後背地の活動が不活発となれば、港勢や市勢もまた弱化する。〈浅香幸雄〉

交配不親和性 こうはいふしんわせい 交配（交雑）不適合性ともいい、交配（交雑）親和性の対語で、植物にしばしばみられる性質である。交配に用いる両親の生殖器官は機能的に完全であるにもかかわらず、それらの間で交配した場合に、正常な花粉管の伸長や受精、胚形成などがみられない場合があり、そのような現象を交配不親和性といい、またそのような現象の現れる交配組合せを交配不親和の組合せとよぶ。なお、それらの両親を交配親和性がないという。

狭義では、サクラソウ、ハクサイ、日本ナシなどのように発現機構が自家不親和性の発現機構と同じものをさす。これには主として二型がある。一つは、一对の芽胞体型遺伝子組合せによって説明されるもので、異型花柱花型といひ、ソバやサクラソウでみられる。これは、長短二型ある雌しべのうち、長花柱花個体と短花柱花個体の相互間受粉においては受精は容易であるが、同型花柱花個体間では受精しにくい。他の型は、S₁、S₂、S₃……など、一連の複対立離反遺伝子群によって説明されるもので、同じ遺伝子だけをもつ個体間の交配では不親和性である。ただし、自家あるいは同じ離反遺伝子のうをもつ他個体の花粉でも、雌性親がつばみのうちか、逆に老花になってから受粉すると正常な

種子ができる。前者をつばみ受粉、後者を老花受粉とよぶ。日本ナシでみられるように、離反遺伝子による場合、品種間交雑によって得られる子供のうち半数は花粉親と不親和である。このような現象を偏交性不親和とよんでいる。交配不親和を物質的にみて、花粉発芽や花粉管伸長阻害物質の存在によるとする説、花粉管から出る抗原と花柱内にできる抗体との関係によるとする免疫学的反応説などがある。〈飯塚宗夫〉

紅梅焼 こうはいやく 東京・浅草の名物で煎餅の一種。浅草観音の仲見世通りにある梅林堂が、江戸時代からこの菓子を手がけてきた。小麦粉に砂糖を加え、ごまを散らした生地を薄くのして、梅、桜、ひょうたん、木の葉、短冊形に押し抜き、鉄板で丹念に焼き上げる。『守貞漫稿』に「看板豆二尺余、木制、紙ハリ、白粉ヌリ、縁リ及び豆形ハ丹ニテ描ク、桜花形ト二ツ掛タルモ多シ、弘化嘉永（一八四〇一四）ノ比ヨリ江戸小市ニテ売之」とある。大衆菓子として人気をもち香餅焼ともいわれた。〈沢 史生〉

購買力平価説 こうばいりよくへいかせつ theory of purchasing power parity スウェーデンの経済学者G・カッセルが唱えた外国為替相場理論で、為替相場の決定ないし変動要因を物価すなわち貨幣の購買力の変化によって説明しようとしたもの。第一次世界大戦中から戦後にかけて各国は金本位制を停止し紙幣本位制となったが、彼は、この制度のもとでも金本位制における金平価と同様に、為替相場の変動には基準があることを主張した。それが購買力平価である。

為替相場の第一次的決定要因は外国為替の需要供給であり国際収支であるが、彼は、国際収支の長期的な基調をなすのは貿易収支であり、さらにその動向を決めるものとして物価をあげた。すなわち、物価水準が外国に比べて高くなると入超となり、低くなると出超になる。このような入出超は為替相場を変化させるが、究極的に落ち着く為替相場（均衡相場）の水準は、各国の貨幣の購買力の比率（購買力平価）によって決まるとした。彼が最初に唱えたのは、各国の物価水準を直接比較した絶対的購買力平価説であったが、のちに修正した相対的購買力平価説とした。それは、過去における為替相場のなから均衡的なものを選び（基準為替相場）、それを基準時点から現在時点までの両国の物価上昇率で修正す



川原狂言 農家の庭にネコブクを敷き、歌舞伎風の所作事を演ずる。1974年上演『船弁慶』

の方法である。この学説は、第二次大戦後の「ドル」三六〇円レートの設定や、変動為替相場制下の円高・円安の判定などに用いられ、代表的な為替相場理論として評価されているが、基準時点や物価指数の選定で種々の問題点があるとされている。

紅白歌合戦 こうはくたがっせん 大みそかに放送されるNHKの歌謡番組。視聴率平均七〇%、最高九〇%の人気番組。男女が紅組、白組に分かれて競う形式は一九四五年（昭和二〇）大みそか放送（ラジオ）の紅白音楽試合が最初。紅白歌合戦の名では五一年一月三日放送が第一回。テレビ放送は、五三年一月二日に実験放送で初放映された。同年大みそから年末恒例番組となる。近年は衛星中継する海外局もある。

コウバクガニ ⇨ズワイガニ

コウバクガニ Kōpavogur アイスランド南部、首都レイキャビークの南に連なる新興住宅都市。首都の発展に伴い、その衛星都市として一九六〇年代に生まれ、人口は一万四二七九（一九六〇）と、同島第二の都市に成長した。地名の意味は「若いアザラシの入り江」。整然とゆつたり配置されたコンクリート住宅群

や丘の上にそびえる超近代的な白い教会が美しい。首都との間に定期バスが走る。『浅井辰郎』

川原狂言 こうばんきやうげん 佐賀県藤津郡太良町多良字上川原に伝わる一種の地芝居。『川原浮立』ともよばれるように、能狂言ではない。佐賀県には浮立を称する民俗芸能が多く、おおむね鉦、太鼓、鼓、笛などで囃し立てるものをさす。川原狂言はこうした楽器の浮立曲にのって演ずる素朴な所作事で、現在『大江山鬼神退治』『船弁慶』『羅生門』『志賀團七仇討』の四演目がある。起源、由来などは不明ながら、ものどもの打ち合わせる棒踊から派生したのではないともいわれている。上演は不定期で、農家の庭先でネコブク（糞を乾燥する蓆）を敷いて舞台とする。同様の狂言浮立は、大正ころまでは隣接の鹿島市内に二、三行われ

ており、長崎市内に似たような『間の瀬狂言』（猿浮立）が現在も伝わる。

耕治人 こうはんと（一九六〇） 詩人、小説家。熊本県生まれ。明治学院高等部英文科卒業。千家元庵に師事し、『耕治人詩集』（一九三九）『水中の桑』（一九三九）などを刊行したが、一九三九年（昭和十四）ごろから小説に手を染める。ゾルゲ事件を扱った『喪われた祖国』（一九五九）や伝記小説『詩人羅月』（一九五九）などの作品もあるが、とくに私小説に彼の本領は発揮されており、読売文学賞を得た『一条の光』（一九六〇）は代表的な作品集である。なお『耕治人全詩集』（一九六〇）によって、八一年（昭和五十六）に芸術選奨を受けた。

大森澄雄

『耕治人自選作品集』全一卷（一九六三・武蔵野書房）▽大森澄雄著『耕治人』（私小説作家研究）所収・一九六三・明治書院

公判 こうはん 刑事訴訟の中心となる手続であって、広義では、公判期日における審理・判決の手続のほか、その準備のためにするいっさいの訴訟手続をさし、狭義では、公判期日における審理・判決手続だけをいう。民事訴訟における口頭弁論にあたる。通常、第一審の公判の重要な原則としては、実体的真実発見主義、公開主義、口頭主義、直接審理主義がある。現行法になって、とくに、当事者主義と職権主義との関係をどのように考えればよいのかというところが問題となっている。そのため、裁判所の職権証拠調べ義務、訴因変更命令義務、訴因変更命令の形成的効力について学説上争いがある。

第一審の公判が開始されるのは、(1)検察官の

公訴の提起があったとき、(2)上級裁判所が原判決を破棄差戻しまたは移送したとき、(3)裁判所が事件を移送または併合する決定をしたとき、(4)裁判所が略式命令または即決裁判をすることができないとき、またはこれをすることが相当でないと考えたとき、もしくは略式命令または即決裁判につき正式裁判の請求があったとき、(5)再審開始の決定が確定したとき、である。

公判廷を組織する者は、(1)裁判官（刑事訴訟法二八二条二項）、(2)裁判所書記官、(3)検察官、(4)被告人（同法二八六条・二八三条以下）、(5)弁護人（同法二八九条・二九〇条）である。

〔公判審理〕公判審理の範囲については不告不理の原則がある。ただし訴因の変更が認められる（刑事訴訟法三二二条）。

通常、第一審の公判審理の順序は次のようである。

(1)冒頭手続 (1)人定質問（刑事訴訟規則一九六条）、(2)検察官の起訴状朗読（刑事訴訟法二九一条一項）、(3)被告人への権利の告知（同法二九一条二項、同規則一九七条）、(4)被告人・弁護人への陳述の機会付与（同法二九一条二項、二九一条の二、三一九条三項）。

(2)証拠調べ（同法二九二条） ①検察官の冒頭陳述（同法二九六条）、②被告人および弁護人の冒頭陳述（同規則一九八条）、③証拠調べの請求（同法二九八条一項）、④証拠調べの範囲、順序、方法の決定（同法二九七条一項）、⑤職権による証拠調べ（同法二九八条二項）、⑥証拠調べの方式 (1)証人等の取調べ（同法三〇四條、同規則一九九条の二・一九九条の三）、(2)証拠書類の取調べ（同法三〇五条）、(3)証拠物の取調べ（同法三〇六条）、(4)証拠物中書面の意義が証拠となるものの取調べ（同法三〇七条）、(5)被告人の任意の供述（同法三一一条）、⑦証拠調べに関する異議の申立て（同法三〇九条）、⑧証拠の排除決定（同規則二〇五条の六第二項・二〇七条）、⑨証拠の証明力を争う機会の付与（同法三〇八条）。

(3)弁論 検察官の論告・求刑および被告人の意見の陳述、弁護人の弁論（同法二九三条、なお同規則二二一条）。

(4)判決（同法三三四条、同規則二二〇条、二二〇条の二、二二一条）。

以上のように、(1)・(3)の多くの手続を経て初めて、最後に(4)判決が下される。↓欠席裁判

↓判決

甲板 こうはん 船舶用語。デッキ(deck)ともいい、一般には「かんばん」とよばれる。建物でいえば床にあたる部分で、船内にはほぼ水平に敷き詰められる。鋼板の出現以前、甲板は木材で張られていたが、現在ではほとんど鋼板になっている。貨物船の場合は鋼板がむき出しになっているが、客船では鋼板の上に木材を張り詰めたものが多い。船首から船尾まで連続している甲板のうち、最上層にあるものを上甲板という。それより下に甲板があれば第二甲板、さらにその下にあれば第三甲板というようによぶ。上甲板の上にも何層かの甲板があるのが普通で、直接風雨にさらされる甲板を暴露甲板または露天甲板という。このほか甲板は、その目的、位置、形状などによって、航海船橋甲板、遊歩甲板、強力甲板などさまざまな名称でよばれる。上甲板は外板とともに構造上もっとも重要なもので、船の強度と剛性を保持し、水密性を確保している。

森田知治

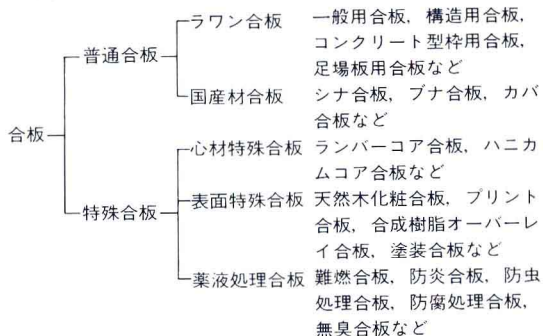
紅斑 こうはん erythema 血管の拡張によって皮膚が局限性に赤くなった状態をいう。単純性血管腫のように先天性のものもあるが、普通は後天性のものであって、多くは炎症性の病変によっておこる。↓皮膚疹

川村太郎

洪範 こうはん 儒家の經典である五經の一つである『書経』（尚書ともいう）のなかの一篇。儒家の世界観に基づく政治哲学の書で、『鴻範』とも書く。洪は大、範は法という意味で、伝説では、夏国の禹が洛水から出てきた神亀にあつた図によって、九類の政治の大法としたという。洪範九畴といわれるのがそれで、五行、五事、八政、五紀、皇極、三德、稽疑、庶徵、五福六極の九つからなっている。すべて政治の要道を項目をたてて説いたものである。なかにおいて五行は、水、火、木、金、土に順序してその特質を述べている。中国思想のものの考え方の根幹となる五行思想はここに始まるとして、洪範の源流を春秋時代、あるいはそれ以前に置く説もあるが、一般的には戦国時代の鄒衍の五行説に影響を受けた思想家が、武王と箕子に仮託してつくつたものとされている。『漢書』の「五行志」は、この洪範の五行説によって災異説をまとめている。『書経』の成立問題は大きく左右される。↓五行説（安居香山）

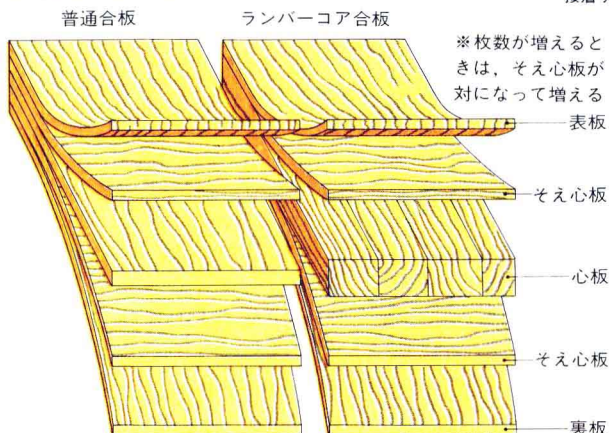
交番 こうばん 警察署の下に置かれる派出所・駐在所の総称。全国に約一万五〇〇〇か所

合板／種類



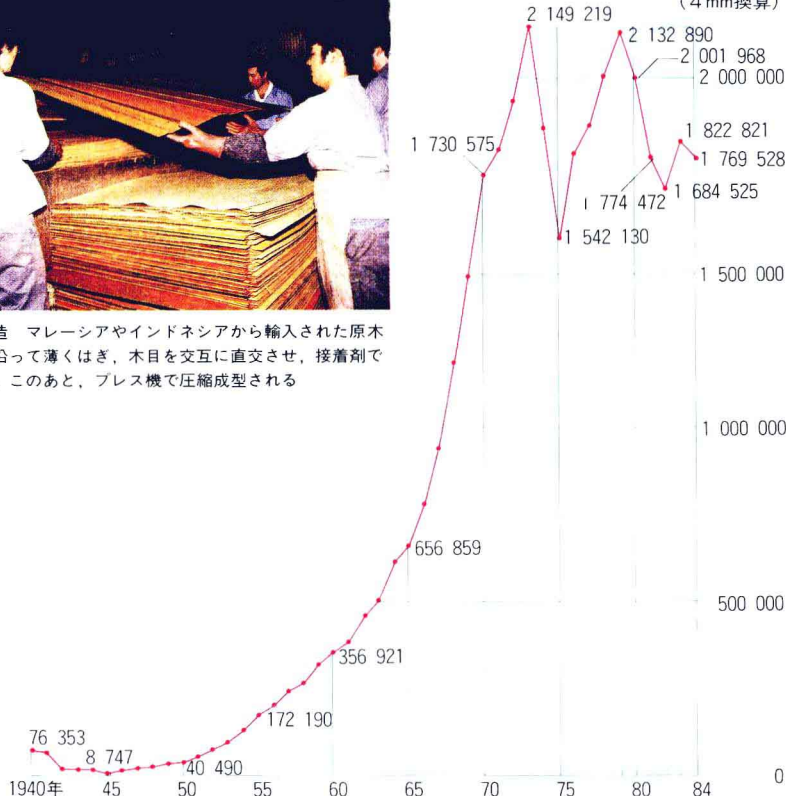
合板の製造 マレーシアやインドネシアから輸入された原木を年輪に沿って薄くはぎ、木目を交互に直交させ、接着剤で接着する。このあと、プレス機で圧縮成型される

5枚合せ合板の構成



普通合板の総生産量

単位：1000m²
(4mm換算)



注：日本合板工業組合連合会による

設置されており、すべての地域はいずれかの派出所・駐在所の管轄区域に属している。派出所は主として都市部に置かれ、交替制の警察官が昼夜を問わず勤務しており、駐在所は原則として一人の警察官が家族とともに居住しながら勤務している。交番に勤務する警察官は、街頭における警戒監視、パトロールや各家庭への巡回連絡を通じて、犯罪の予防検挙、交通指導取締り、各種事故防止にあたるほか、少年の補導、迷子・酔っ払いの保護、困り事相談など幅広い活動を行い、地域住民の日常生活の安全を守っている。交番は、一八八一年（明治一四）一月、太政官布告「警視庁職制事務章程」により交番所という名称で定められた制度であり、シンガポール共和国が一八八四年（昭和五九）二月に日本の交番制度を導入したほか、治安問題の悩みを抱える諸外国からも注目を浴びている。

合板（ごうはん）plywood 木材を薄くむいて板とし、板の繊維方向が互いに直交するようにして奇数枚を積み重ね接着剤で貼り合わせて一枚の板としたもの。合板をつくるのに用いる薄板をベニヤ（veneer）というが、日本では合板を誤ってベニヤまたはベニヤ板とよぶことがある。建築用途として屋根、内外壁、床、天井の下地材および仕上げ材、木造住宅の筋かい代替、コンクリート型枠、足場板、ドア、家具があり、楽器、運動用具、電気機器、車両、船舶など幅広い分野で用いられる。↓ベニヤ↓木材工業合板を構成する一枚の薄板を単板といい、表裏になるものを表板、裏板、中間のものを心板、中板という。広い面積の板をつくることができ、節、割れ、腐れなどの欠点を除去でき、方向による伸縮が改善され、表面に化粧材を張れば美麗な板が得られるなどの特徴がある。

〔工程〕合板の製造は、まず木材を薄くむいて単板とし、乾燥させたのちに、表板、裏板、心板とに選別し、欠点を除いたり、幅はぎをして寸法を整える。その後、単板に接着剤を塗布して積み重ね、加熱圧縮を行って接着したのち、寸法裁断、仕上げ加工の工程をとる。合板用材には広葉樹でセン、シナ、ナラ、タモ、カバ、針葉樹でマツ、スギ、輸入材としてラワン類、メランチおよびセラヤ類、カプール類があり、広葉樹は主として表・裏板として用いる。単板の製造方法には、木材の年輪に沿ってベニヤレイスにより連続して薄くむく方法と、木材の繊維方向にスライサーによりむく方法とあり、ベニヤレイスでは板目の単板となり、日本で生産される単板の九五％以上を占める。スライサーによれば板目の単板が得られる。接着剤にはフェノール系樹脂、メラミン系樹脂、ユリヤ系樹脂、ビニル系樹脂などがあり、グルースプレツダに単板を通して塗布される。接着は一一〇／一四〇度Cの熱プレスで通常一平方メートル当たり八〜一〇kgの圧力で行う。

〔種類〕合板には普通合板のほか、心板に幅の狭い挽板を用いたランバーコア合板、心板のかわりに蜂の巣状樹脂加工紙を用いた軽量合板、美観・表面の硬さ増強などの目的で普通合板の表面に樹脂板・紙・天然木薄板を貼ったオーバーレイ合板、表板に模様を印刷したプリント合板、塗装を施した塗装合板がある。成形合板は、目的にあった曲面を型押ししたものや、単板にフェノール樹脂を含浸させ高圧を加えた硬化合板がある。さらに使用場所の目的にあわせてつくった構造用合板、難燃合板、防災合板、防菌処理合板、防虫処理合板がある。

〔性質〕合板の性質は単板の品質、単板の厚みと層構成、接着剤の種類によって異なる。フェノール樹脂、メラミン樹脂接着剤を用いた合板は吸湿・吸水速度が小さく、単板のはがれも軽微で耐久性に優れる。収縮、膨張は、互いに繊維方向を直交させているので方向による差はなくなり、板目方向の1／20となる。また割裂、割れに対しても強くなる。合板の機械的性質は、表板の繊維方向と荷重方向との関係で大きく変化する。表面をすらすらな力が働くと心板が破壊するので、構造的利用では注意を要する。各種の品質を定めたものに日本農林規格（JAS）がある。〔神山幸弘〕

孔版印刷（こうはんいんさつ）型紙を枠に張り、上からインキを押し出して印刷する方法。版そのものに孔があいているので、この名称となった。この種の印刷法には謄写版、スクリーン印刷などが含まれる。謄写版は、蠟紙を金属製のすりの上に置き、文字や図を鉄筆で書くところ、その部分だけ蠟がはがれる。これを布を張った枠に張り、ローラーでインキをつけると、蠟のはがれた部分はインキが通過して紙に移る。鉄筆で書くかわりにタイプライターの活字を強く押し付けてもよい。これはタイプ孔版とよばれ、軽印刷として利用される。凸版、平版、凹版に対する第四の版式として、孔版は特殊な印刷に



強飯式 山伏姿の強飯僧が、二飯を盛った黒い大碗を、丸膳に塗り口上を述べながら、特姿の頂戴人2日。栃木県日光市輪王寺

用いられることが多い。↓膳写版 ↓スクリー印刷

煌斑岩 こうはんがん 山本隆太郎

強飯式 こうはんしき 神人饗応の祭りの場で

高盛飯を無理強いして食わせる作法をいい、その例は多い。神の御供はけつして粗末にしてはならぬと新婚の通過儀礼として強要する儀礼もある。しかし、普通、強飯式として知られるのは栃木県日光市輪王寺の強飯式である。同寺の三仏堂で毎年五月二日に行われ、「日光責め」ともいわれる。山伏姿の僧が黒塗りの碗に飯を盛り上げて出て、袈裟の頂戴人に向かって激しい口調で口上を述べ、飯と茶を強いるのである。菜は唐辛子、生大根、山椒、蓼といったもの。

同じ日光市でも七里の上野の生岡神社の強飯式は素朴である。毎年一月二五日に、行われ、雑式装束を身にまとい頭に目籠笠をかぶった太郎坊・次郎坊に扮する大人を、山伏・強力に扮した子供が責めるのである。この行事は、強飯式、御飯食に案内申す、春駒と三つに分かれており、収穫祭と予祝を含んだ農耕儀礼の色彩を多分にみせていて甚だ興味深い。〈萩原秀三郎〉

紅斑性狼瘡 こうはんせいろうそう エリテマトーデス

甲板長 こうはんちやう 船舶の甲板部の職長。

古くは水夫長といった。一等航海士の指示を受けて甲板部員を指揮監督するとともに、船体・船倉・船用品の整備、荷役準備、貨物の保全・保安、船内の見回りを担当する。最近の大型外航船では、甲板長のもとに甲板手約四人、甲板員約三人が配置されている。船員法(昭和二十二年法律一〇〇号)では、七〇〇総以上の船舶の甲板部員は最低六人となっているが、船員制度の近代化のものと、航海士の職務の一つである船舶当直のみを行う半航海士化(運航士といひ、限定免状が必要)や、機関部員の作業をも行う両用部員化(船舶技士といひ)が進められようとしている。なお船舶には、甲板部員以外に、機関部では操縦長、操機手、機関員、事務部では司厨長、調理手、司厨員が乗り組んでいる。↓船員

口碑 こうひ 石碑に刻んだ文が長く残るのになぞらえて、口承に残った言い伝えをこうよぶ。前代の生活の痕跡を語る昔話、伝説、語り物、民謡、童謡などのほかに、唱え言、諺、謎などが含まれる。口から耳へ、世代を繰り返しながら伝えられる文芸で、一定の形式をもって、時代の習慣・風俗が変わった今日でも生命を保ち、同じ内容が場所を変えて点在している。特定の作者がなく、多くの人に語られ聴かれてきたことが特徴。記録にとどめられないうちに、古い時代の確証が定められず、考証の限界はあるが、庶民資料の大半はこの形態で伝承された。

交尾 こうび coitus, copulation 体内受精が行われる動物で、生殖口を密着させて雄の精子を雌の体内に送り込む行動をいい、交接ともいう。進化の過程で陸にあがった動物は、魚や多くの水生無脊椎動物のように、生活している場にある水を精子の運搬手段として使えなくなった。そこで雄が直接、雌の体内に精子を送り込む必要が生じた。このため、多くの種では、精子を送りあるいは受けるための交尾器官が発達している。普通、雄の交尾器官を陰茎、雌のものを産道といふ。もともと典型的な例は哺乳類で、よく発達した陰茎を産道に挿入して交尾が行われる。多くの鳥類では交尾器官はとくに発達せず、総排出口を密着させて交尾する。爬虫類では総排出腔の内壁が発達してできた半

陰茎とよぶ交尾器官によって交尾が行われる。両生類のカエルの仲間では体内受精は行われず、雌は水辺で産卵し雄が精子をかけるが、この際、雄は雌を抱きかかえ生殖口を近づける。これは交尾とはいわず抱接という。魚類は多くの場合体外受精であるが、ソードテールのように腎びれが変化した交尾器官をもち体内受精を行うものもある。サメの仲間にも、腎びれの変化した交尾器が発達したものが多く、無脊椎動物では昆虫やミミズ、カタツムリなどが交尾を行い、独特な交尾器官が発達しているものもある。また、雄は、交尾可能なところまで雌に近づいたために、さまざま求愛行動を行う。↓求愛行動

合肥 こうひ 中国、安徽省中部にある市で、同省の省都。肥水に沿い、南に巢湖を控え、水路網が縦横に走る皖中平原の中心地で、中原と江南を結ぶ交通路上の要地として発展した。春秋時代は舒国(舒)の地で、漢代に合肥郡が置かれた。隋代に廬州が置かれ、南宋代には金に対する最前線となり交易場が置かれた。明・清代は廬州府治であり、一九四九年に市が設けられ、安徽省省都をここに移した。解放前は消費都市であったが、解放後、各種工業が急速に発達し総合工業都市となった。鉄鋼、鋳山用機械、電動機、紡織、化学、電子機器、建材などの工場が立地している。旧城壁の取り払われた跡が環状道路となり、城壕の跡が包河公園に姿を変えた。旧市街南方に広大な新市街地が形成されている。名勝旧跡には逍遙津園、教弩台などがある。〈林和生〉

紅皮症 こうひしょう 全身の皮膚が潮紅して落葉状あるいは粒状(ぬか)様の落屑を伴った状態。種々の原因によっておこる一種の皮膚反応型の症状。汎発化した湿疹とみられる湿疹続発性紅皮症、乾燥などが汎発化した各種皮膚疾患の続発性紅皮症、抗生物質などの薬剤による中毒性紅皮症、自家中毒などによるとみられる落屑性紅皮症、細網内皮系の腫瘍や白血病にみられる腫瘍性紅皮症が含まれる。〈山田清〉

抗ヒスタミン薬 こうひやく antihistaminics ヒスタミンと特異的に拮抗する薬物。アレルギーの一つの原因としてヒスタミンがあり、このヒスタミンと拮抗することから抗アレルギー剤として用いられる。すなわち、急性じんま疹をはじめとしてアレルギー性皮膚炎やア

レルギー性鼻炎、感冒など上気道炎に伴う鼻汁、くしゃみ、咳嗽(咳)の治療に用いられる。副作用として眠気をもつものが多く、その作用の大きなものは睡眠薬として用いられる。ジフェンヒドラミンが代表的な薬剤であり、これより作用が大きく副作用の少ないものが開発された。

アレルギーの原因としてはヒスタミンのみではなくセロトニンも関係することから、抗セロトニン作用のあるものや中枢神経に対する作用として静穏作用をもったもの、鎮吐作用、鎮咳作用や抗パーキンソン作用をもったものも開発され、抗ヒスタミン作用はその一部であるかのように考えられるようになった。またアレルギーを抑制する抗ヒスタミン薬が注射によりショックをおこした例もみられ、注射での応用はきわめて少なくなった。現在、かぜ薬の中に配合されて一般用医薬品として使用されているほか、眠気などの副作用の少ない薬剤がアレルギー性皮膚疾患やアレルギー性鼻炎の治療に用いられている。また乗り物酔いの薬としてもジメヒドリンナートがよく用いられる。

おもなものをあげると、塩酸ジフェンヒドリン、タンニン酸ジフェンヒドリン、マレイン酸クロロフェニラミン、塩酸クレミゾール、塩酸トリプロロジン、塩酸イソチペンジル、塩酸プロメタジン、塩酸メトラジン、酒石酸アリメマジン、塩酸ジフェニルピラリン、塩酸イプロヘプチン、塩酸シクロヘプタジン(体重増加の目的でも使用される)、塩酸ホモクロロシクリン、フマル酸クレマスタチン、マレイン酸カルビノキサミン、マレイン酸ジメチンデン、ナパジル酸メブヒドリン、メタキシンなどがあり、抗アセチルコリン作用、抗ブラジキニン作用など抗ヒスタミン作用以外の作用もみられる。↓ヒスタミン

紅砒ニッケル鉱 こうひ ニッケル 磁鉄鉱群の鉱物の一つ。深熱水鉱脈鉱床、ある種の正岩漿性鉱床中、変成層状マンガン鉱床中などに産し、他のニッケル硫化物などと共生する。〈幸保文治〉

紅砒ニッケル鉱
学名・英名 niccolite
化学組成 NiAs
副成分 Co, Sb
結晶系 立方
硬度 5~5.5
比重 7.38~8.1
色 淡銅赤
光澤 金属光澤
条痕 暗赤

る。ニッケルの鉱石鉱物としては顧みられていない。日本では、兵庫県夏梅鉱山の超塩基性岩中の団塊状のものが有名である。地表条件で分解しニッケル華になる。自形は六角板状であるが、きわめてまれである。 （加藤 昭）

後氷期 こうひょうき 新生代第四紀の最終氷期（ビュルム氷期）が終わった約一万年前から現在までの時代。完新世（沖積世）、現世などと同義語に用いられることもある。最終氷期の末から始まった気候の温暖化に伴い、中緯度まで分布していた氷床や氷河が著しく後退してから以後の時代をさす。この時期の前半は氷河が融けて海水が増したため海面上昇が著しい。気候の温暖化は約六〇〇〇年前に頂点に達し、この時期には気温が現在より二・三度Cほど高かったことがわかっている。日本列島でもこの最温暖期には、海面が現在より二・三メートル高い位置に達し、各地の谷沿いや平野に内湾が形成された。これが縄文海進である。このとき、黒潮は現在の位置より北上し、暖流系の貝類が現在より北にまで分布を広げている。 （松島義章）

公布 こうぷ 成立した法令を国民に知らせるために公示すること。法令はすべて公布され、公布がなければ法令の効力は発生しない。憲法改正、法律、政令、条約の公布は天皇の国事行為として行われる（憲法七条一）。明治憲法時代にあった公式令が廃止されたため、現在、公布の方法に関する規定はないが、最高裁判所の判決で、公布は原則として従前どおり官報によってなされると限定された。法令公布がいつなされたかという時期の点についても、最高裁判所は、その法令を掲載した官報が全国の官報販売所に発送されて、いずれかの販売所で閲覧可能になった最初の時点で公布があったものと解すると述べ、全国同時施行主義をとることに決めた。 （池田政章）

甲府（市） こうふ 山梨県、甲府盆地のほぼ中央部にある県庁所在地。一八八九年（明治二二）市制施行。一九三七年（昭和一二）里垣相川、国母、貢川の四村、四二年千塚、大宮の二村、四九年池田村、五四年山城、住吉、朝井、王諸、甲連、千代田、能泉、大鎌田、二宮、宮本の一〇村を編入。そのため西山梨郡が消失し、北境は金峰山頂に達して長野県に接することとなった。中央本線の駅の南北に市街が展開し、中心部の標高二六三。五一年富士吉

田市の誕生までは県内唯一の市として、行政をはじめあらゆる面で県の中心であり、新市増加の現在でもその役割は変わっていない。中央本線が通じ、国鉄身延線を分岐するほか、バス路線が集中している。国道は二〇号、五二号、一四〇号、三五八号などが走り、中央自動車道のインターチェンジは隣接の昭和町（甲府昭和インターチェンジ）と中道町（甲府南インターチェンジ）にある。人口二〇万二四〇五。

〔歴史〕 集落形成の歴史は古く「倭名抄」にもみえる青沼郷、表門郷に比定されるが、都市としての発生は、一五一九年（永正一六）武田信玄の父信虎が居館を、石和から、水害を避けて相川扇状地の上部、現在の市の北郊古府中にあたる躑躅ヶ崎に移してからに始まる。以降、信玄、勝頼と三代六三年間武田氏の拠点として栄えたが、武田氏滅亡後、城は現在の甲府城（舞鶴城）跡（甲府駅の南側）の場所に移され、浅野長政が城主であった一五九四年（文禄三）に完成する。その後、柳沢吉保が城主のとき（一六四四）市街地の整備が行われ、五街道の一つである甲州街道筋の城下町としての基礎がつくられ、それ以降江戸時代を通して幕府直轄領としての甲州の中心地として栄えた。江戸時代の町並みは甲府城の南から南東に広がっていたが、町の中心は、東の酒折のほうから西に延びていた甲州街道の終点にあたっていた八日町（のちに柳町に移る）で、その付近には本陣や多くの旅館が集まっており、周辺には魚町、工町、鍛冶町などの城下町特有の町場が形成されていた。一八七一年（明治四）山梨県の県庁所在地になると、県庁をはじめ多くの官公署や学校は城の南側の旧武家屋敷地区に設けられた。現在の官庁街がそれである。一九〇三年（明治三六）中央線の八王子―甲府間の開通、〇九年に町の北郊旧相川村に歩兵第四九連隊が設けられてから、中央線甲府駅付近と連隊までの北部地区、それに南西部などに人家が増加し、二〇年（大正九）の第一回国勢調査での市の人口は五万六二七人に達していた。四五年（昭和二〇）には人口も二万人を超えていたが、その年の七月六日アメリカ軍の空襲によって町の七〇％を焼失してしまった。戦後の市街地の発展は西郊に著しく、とくに貢川地区や池田地区には、住宅団地の設立や、県立病院の移転などで著しい人口増加がみられており、また市の中心部はいわゆる人口のドーナツ現象によ



って人口の減少をみせている。八五年の人口は約二〇万人であるが、実際には電王町、敷島町、昭和町など周辺町村にも甲府への通勤者の住宅が連続的に広がっているため、甲府市街圏は二五万二六万の人口規模をもった都市とみることができるとする。

〔産業〕 かつては中部養蚕地帯の中核として盆地とその周辺の繭を集め、昭和初期まで横浜市場で甲府生糸の価値を高めた製糸が最大のものであったが、いまはほとんど消滅した。市の産業構成をみると、卸・小売業人口がもっとも多く三〇％を超え、ついで製造業、サービス業の順となっており、県庁都市、甲府盆地の商業中心の性格が強い。工業では大工場が少なく、

伝統産業や食料品など地方都市なみの工場が多い。伝統産業のなかには、水晶加工から発展した貴金属工業、戦後製糸業から転換したニット、縫製工業などがある。しかし、最近では電子、機械などの部品工業も進出し始め、市の南部に設けられた国母工業団地を中心に操業している。また、市街周辺の市域は米作中心の農村部であるが、近年は近郊野菜栽培、果樹栽培も盛んで、ワイン製造も行われている。名産品に水晶、甲州印伝、アワビの煮貝、信玄餅、名菓「月の雫」などがある。

〔観光・文化〕 武田信玄ゆかりの武田氏館跡（躑躅ヶ崎館跡）は国指定史跡で、現在武田神社がある。また信玄ゆかりの善光寺（甲斐善光



甲府市

- ①南上空から見た市街。中央の甲府城跡の左にデパートを挟んで県庁・市役所、その左側に金融関係の会社街があり、市の政治・経済の中心地
- ②信玄公祭。武田神社の祭礼で、4月12日前後に行われる。戦国当時の出陣のようすを再現した勇壮な祭りで、とくに武田二十四将の騎馬行列は有名
- ③研磨工業。享保年間(1716-36)、御岳の神官が京都の職人に水晶の原石を加工させたのが始まりで、現在は水晶のほか、ダイヤモンド、めのうなどの加工も行われている。写真は動力パフを使って貴石の仏像の仕上げをしているところ

寺)には国指定重要文化財(本堂、山門、阿弥陀如来像など)が多く、東光寺薬師堂、塩沢寺地蔵堂も重要文化財である。また、甲府城跡は舞鶴城公園となり桜の名所。そのほか湯村温泉をはじめ市内の温泉、それに精翠寺温泉があり、北郊には溪谷美で名高い御岳昇仙峡(特別名勝)、近くの金桜神社、板敷溪谷も名高い。また、文化施設には、山梨県立美術館、山梨宝石博物館などがある。繁華街は駅の南東、官庁街に続く地区で、デパート、大手スーパーを中心に多くの専門店や飲食店が建ち並んでいる。観光行事としては、四月初旬に行われる信玄公祭がある。

④『甲府市制六十周年誌』(一九九六・甲府市)▽横山豊編『甲府の今昔』(一九九七・山梨出版社)▽『甲府いまむかし』(一九九三・甲府市)▽『甲府市史——市制施行以後』(一九九四・甲府市)▽『甲府市の文化財』(一九九六・甲府市)『地』五万分之一地形図「金峰山」「御岳昇仙峡」「甲府」

江府(町) こうふちやう 鳥取県南西部、日野郡にある町。一九五三年(昭和二八)江尾町と神奈川、米沢の二村が合併して成立。国鉄伯備線、国道一八一号が通じる。日野川に沿う中心の江尾は戦国末期は尼子方の城下で、江戸時代は日野往来の宿場町、番所所在地であった。明治以後は谷口集落として発達した。大山南麓には草地造成による牧場があり、裏大山南麓に鏡ヶ成国民休暇村や、旧本地師集落御机下蚊屋がある。県指定の天然記念物には武庫の七色カシ、下蚊屋神社のサクラ、保野熊野神社社叢、県の無形民俗文化財には、江尾のごだい踊、下蚊屋の荒神神楽などがある。中国電力保野川発電所は、岡山県側旭川水系から保野川水系の下池ダムに導水し、最大出力二〇万ワットの揚水発電で八五年に完成した。人口四七五七。

④『江府町史』(一九九三・江府町)『地』二万五千分之一地形図「伯耆大山」「延助」「美作新庄」「江尾」「根雨」

坑夫 こうふ ①鉱山労働者

坑夫 こうふ 宮嶋資夫の中編小説。一九一六年(大正五)一月近代思想社から、堺利彦・大杉栄の序を付して刊行。題材は、茨城県タングステン鉱山に事務員として一年数か月勤めた体験による。かつて「野州の山」の暴動の際主唱者よりも勇敢に闘った石井金次は、怯懦な仲間たちの裏切りにあい、放浪坑夫となつて、いまは池井鉾山に流れてきている。しかしここでも、怠惰な坑夫仲間への激しい反発は、石井を酒とけんか女との凶暴な生活と出口のない寂寥に落とし込み、ついには渡り者との決闘に倒れてしまう。石井の反発は個人的な域にはとどまるが、労働者と労働現場の生き生きとした描写が、『坑夫』を大正期労働文学の秀れた先駆作品とした。

④『宮嶋資夫著作集1』(一九九三・慶友社)工部 こうぶ ①三省六部

光風会 こうふうかい 洋画、工芸の美術団体。一九一一年(明治四四)白馬会が解散したのち、その中堅会員であった中沢弘光、山本森之助、三宅克己、杉浦非水、岡野榮、小林鐘吉、跡見泰らが発起人となり翌一二年に結成、同年六月上野竹之台陳列館において第一回展を催した。その後、工芸部を新設し、小林万吾、南薫造、辻永、児島虎次郎、鬼頭錦三郎らを順次会員に迎え、毎年春に公募展を開催している。創立に際しとくに掲げた主義主張はないが、穏健な写実的作風を主流とする官展系美術団体として存続し、現在一水会と並ぶ日展の強力な支持団体となっている。

④『佐伯英里子』

公武合体論 こうぶがたいろん 幕末期、公(朝廷)と武(幕府)とが一体となつて内外の政局に対処しようとした考え方。幕府側より提起され、孝明天皇の異母妹和宮の將軍徳川家茂への降嫁案で具体化した。時勢の展開とともに福井(松平慶永(春嶽)、高知(山内豊信(容堂)、宇和島(伊達宗城)、鹿児島(島津久光))ら雄藩勢力の介入をみるに至り、尊攘・倒幕派の運動激化に対応しながら中央政局の実践的政治論となった。

もともと、朝廷・幕府が和解・協力して治平を図るという考え方は江戸中期以前からあり、新井白石は、皇子出家の慣例をやめ親王家を立てるべきことを進言し、閑院宮家創設が実現している。幕府の支配権力の安定期にあつては、天皇にかわり將軍が大政をとることを神々の心にかなうめでたき世の姿とみる本居宣長や、封建体制の頂点にたつ將軍が大名以下を統率し天皇へ尊敬の誠を捧げることを秩序正しい尊王のあり方とする水戸学の主張が思想的基盤となつていた。しかし幕末に至り対外危機の深化に伴う反幕府機運の高揚に対処するため、幕府は朝廷の神秘的・伝統的権威と結ばざるをえなくなった。老中阿部正弘は幕閣専制を改めて、徳川斉昭、島津斉彬らと協調して政局安定を図り、一八四六年(弘化三)海防勅諭にこたえて対外状況を朝廷に説明し、ペリー来航、和親条約締結に際してもそのつど報告した。次の老中堀田正睦も日米修好通商条約調印を前に上京、勅許を求めたが、これらは公武合体政策の現れであった。ところが老中井伊直弼の専断調印後の権力政治、安政の大獄などにより朝野関係は陰悪化した。井伊時代に緊張緩和の礎石として画策された和宮降嫁は、桜田門外の変後、老中安藤信正によって一八六二年(文久二)実現をみたのである。しかしこのころ幕府

はすでに自らによる中央政局の統率力を失っており、雄藩の介入が始まった。島津久光の進言による一橋慶喜の將軍後見職就任および松平慶永の政事総裁職実現後、公武合体運動の主導権は幕府の手から前記四藩に移り、その協力・援助によって幕府はその地位を保つにすぎなかった。一八六四年（元治二）の第一次征長役後、雄藩が幕府をより立て時局收拾することに熱意を失うとともに公武合体論はしだいに行き詰まり、六六年（慶応二）鹿兒島藩が倒幕派に転じ、攘夷を熱望しつつも幕府信任を変えなかった孝明天皇の崩御をみるに及んで解体した。その後、豊信、慶永らによる公議政体論の主張、大政奉還建白で主導権を握ったかにみえたが、倒幕派によって前將軍慶喜の新政権参加が葬られたことで公武合体論は政治生命を終わらせた。

山口宗之

工部局 こうぶきょく 一八五四年に設置され、一九四五年まで存続した。中国、上海租界（外国人居留地）の行政機関。形式的には市参事会の下部機関だが、警察部、教育部、図書館など三部署をもち、外国人の支配する「国のなかの外国」として機能した。一八四二年、南京条約に基づき、その翌年に上海は開港した。開港初期には外国人は県城内に住んでいた。しかし、一八四五年の第一回土地章程の締結後、外国人は北側の低湿地に移るため、道路、埠頭を建設する委員会をつくり、基金を集めた。この委員会を起源とするため工部局の名がある。

加藤祐三

甲府勤番 こうきんぱん 江戸幕府が、甲府城の守護・管理と甲府町方支配のため、老中の下に設置した職名。一七二四年（享保九）甲府城主柳沢吉里は和郡山に転封、甲斐国（山梨県）全域が幕府直轄領となり設置。構成は、支配二名の下に番士二〇〇名、与力二〇騎、同心一〇〇名を配置、大手、山手二組に分け、各組は支配一名、組頭二名の下に飯目付一〇名を置き、両組を一四組に分ける。勤務は両組隔日交代、昼夜交代で城内茶屋敷に勤番。また甲府民政は両支配が月番で処理。支配、番士とも多く小普請組より任命。支配は遠国奉行筆頭、高三千石、役料千石、番士は高五百石から二百俵取まで。勤番士への任命は「山流し」などといわれ嫌われた。

増田廣實
笹間良彦編「江戸幕府役職集成」改訂増補（七三・雄山閣出版）

幸福 こうふく 人間は生きていくなかでさまざまな欲求をもち、それが満たされることを願うが、幸福とはそうした欲求が満たされている状態、もしくはその際に生ずる満足感である、とひとまずいえる。人間はだれしも幸福を求める。しかし、人がどのような欲求の満足をも求めているかに応じて、幸福の内容もまたさまざまである。いわゆる幸福論や人生論は、人間にとって真の幸福とは何かを語るが、語り手によって幸福の内容がそれぞれ違うのも、ある意味では当然であろう。

感性的な欲求の満足にのみ幸福を求める人は、一般に快楽主義者とよばれる。この場合幸福とは感性的快楽であり、古代ギリシアのエピクロスがこの種の快楽主義を主張したとされ、そこから快楽主義者はエピキュリアンとよばれる。しかしエピクロス自身は、真の幸福はかえっていかなる欲求によっても心が乱されない境地（アトラクシア）にあると考えた。東洋では、悟りの境地とか無の境地といわれるのがこれに近いであろう。ここで求められているのは、感性的欲求の満足ではなく、精神的安定を求める欲求の満足である。ストア派の人々も、理性の指図に従って自己を支配し、克己禁欲（ストイック）に生きることによって幸福をみいだした。ストア派に限らず、総じて自己の人格の完成に精神的幸福を求める人々は、感性的快楽を低次の幸福とみなし、それを否定する傾向にある。

以上の見方はいずれも個人の幸福を主眼としているが、人類全体の幸福の促進を重視する倫理説もある。たとえば功利主義によると、倫理的によい行為とは、「最大多数の最大幸福」を求める行為である。この幸福には感性的快楽のほかさまざなな精神的快楽も含まれるが、実際に多種多様な快楽の総和を計算で知することは困難であり、今日では功利主義の原則は、快の増大よりもむしろ不快（苦）の減少に適用されている。つまり、地上から人類の不幸をできるだけ除去することが幸福の増大につながるという見方であって、マルクス主義のなかにもこの種の見方が形を変えてみだされる。なおカントは、幸福を直接目的とするいっさいの幸福主義倫理を退け、道徳法則に従う有徳な生活を重視する。有徳な生活はただちに幸福ではないが、「幸福を受けるに値する」生活であって、徳と幸福との一致も、有徳な生活を通じてのみ

望みうるのである。

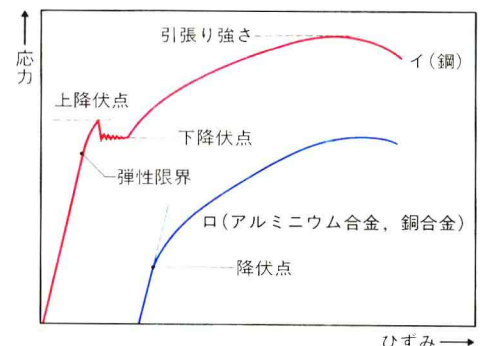
降伏 こうふく surrender 通常、要塞地などで攻囲された軍隊が敵対行動をやめ敵の権力下に置かれることをいう。降伏は、無条件でまたは条件付きで行われる。一般には、降伏する軍隊と敵軍の指揮官の間で降伏規約を締結し、敵権力下に置かれる兵員、武器、地域などに関する条件を定める。一九〇七年の「ハーグ陸戦規則」第三五条は、降伏規約には軍人の名誉に関する例規が参酌されるべきことを定めた。

降伏規約の取り扱う対象はこの指揮官の権限に属する軍事的事項に限られ、たとえば敵の占領する地域の主権を敵に移譲するといった政治的事項を取り決めることはできない。降伏規約がいったん確定すれば、当事者双方はこれを厳密に遵守しなければならない。上記の降伏はその指揮官の下にある部隊のみに関する行為であって、交戦国軍隊全体に関する一般的休戦とは異なる。しかし第二次世界大戦末には、日本が連合国に対して調印した降伏文書のように一般的休戦の意味をもち、しかも政治的事項を含む降伏規約が結ばれた。↓無条件降伏（藤田久一）

光復会 こうふくかい 中国、清末の革命団体。一九〇四年冬、上海で正式に成立した。会長は蔡元培。興中会の広東、華興会の湖南に対し、光復会は浙江省を地盤としていた。〇五年三派は大同団結し、孫文を総理として東京で中国同盟会を結成した。しかし、光復会の一部会員は合同に賛成で、以後も独立性を維持した。それには、同派の理論的指導者であった章炳麟の国粹主義的、復古主義的な個性が多少影響していた。そのため、一〇年、陶成章が南洋に赴き、東京にいる章炳麟を会長にして、改めて光復会を組織し直した。また同時に光復軍という秘密の軍事組織もつくった。一年の辛亥革命のとき、光復軍は汕頭、浙江、上海などで活躍した。しかし一二年陶成章が暗殺されると、光復会は事実上解体していった。↓祖國光復会（倉橋正直）

降伏現象 こうふくげんしょう 固体に力を加えた場合に、ほぼ一定の力のままで急激に著しい塑性変形をおこす現象。物体がある速さで変形させると、初めは変形に必要な力は急激に増す（図参照）。この範囲では、材料の変形はほとんど弾性変形だけであり、力（応力）と変形量（ひずみ）とは比例関係にある（フックの法則が成立）。しかし、ある値以上の力が加えら

降伏現象
一定速度で材料を引っ張った場合の応力 ひずみ線図



れると、弾性変形のほかに塑性変形も生じるようになる（弾性限界）。さらに変形を続けると、塑性変形量は急激に増し始め、変形を続けるために必要な力はあまり上昇しなくなる（降伏点）。鋼（炭素鋼）などの場合には、図中の曲線イで示されるように、材料は変形し続けていながら、その後しばらくは変形を続けても力はほとんど増さない。これを降伏現象といい、降伏開始時の力を上降伏応力、変形を続ける力を下降伏応力とよぶ。この現象が鉄鋼材料で生じることとは古くから知られていたが、近年になってシリコンやゲルマニウムなどでも同様の現象を生じることが明らかにされた。

アルミニウム合金や銅合金では曲線ロで示されるように、応力ひずみ曲線は降伏点前後でもほぼ連続している。この場合の降伏点としては、永久（塑性）ひずみが〇・二％（場合によっては〇・〇五％）生じたときの応力と定義することが多い。↓ひずみ
興福寺 こうふくじ 奈良市登大路町にある法相宗の大本山。
〔沿革〕六六九年（天智天皇八）藤原鎌足が山城国（京都府）宇治山科の私宅に一寺を建立しようとして果たさず、没後創建されて山階寺と号したのに始まる。六七二年（天武天皇一）これを大和国（奈良県）高市郡既坂に移して既坂寺と号し、ついで七一〇年（和銅三）奈良遷都に伴って、藤原不比等が現在地に移建して興福寺と改めた。以来藤原氏の氏寺として栄え、天平年間（七五〇～七五九）に五重塔、東金堂、西金



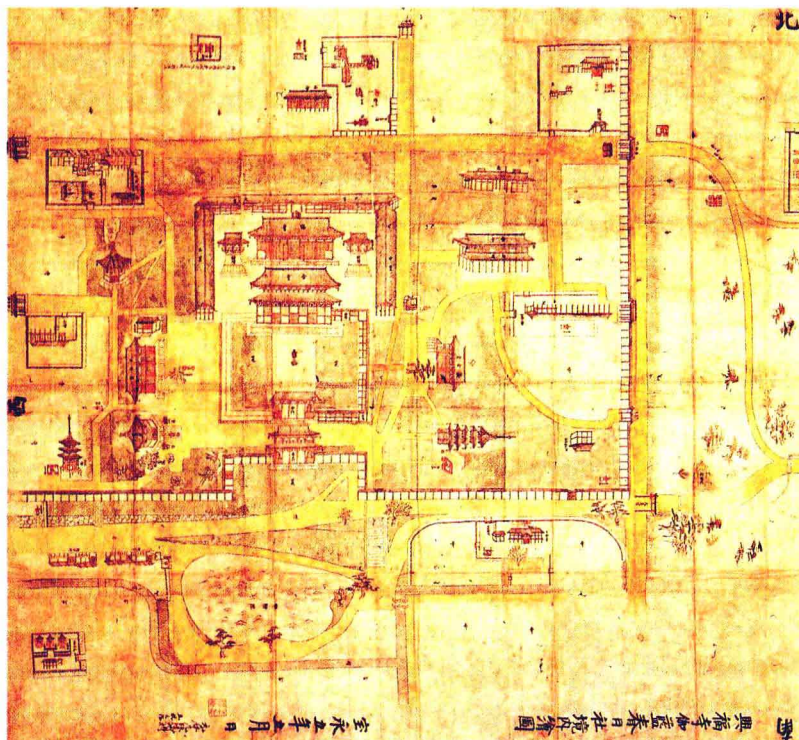
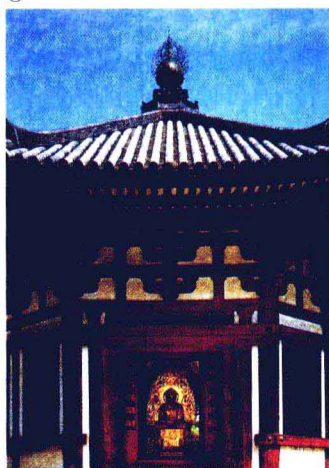
①東金堂と五重塔 いずれも奈良時代の創建であるが、たびたび罹災し、現在の東金堂は1415年（応永22）、五重塔は1426年に再建されたもの。ともに復古的色彩の濃い純和様で、天平建築の重厚な趣を伝えている。ともに国宝

②北円堂 721年(養老5) 藤原不比等の一周年忌にあたって創建されたが、現堂は鎌倉初期の造営。平面規模はほぼ創建時を踏襲しており、法隆寺の夢殿と並ぶ名建築である。内陣しん御壇みだんに安置する木造不動

仏坐像（国宝）は、運慶が弟子源慶、静慶を指導してつくったものとみられ、鎌倉彫刻の逸品。国宝

③八部衆立像 緊那羅像 もとは古代インドの異教の神であったが、のち仏教に帰依して仏法守護神となったもの。甲を着した神將形で表され、三目一角を有する異相形。像高 148 cm 脱活乾漆 奈良時代 国宝

④新能 5月11、12日の夕、南大門跡で行われる。竹矢来を組み、寺紋の入った幔幕を巡らして野外舞台を設け、篝火を焚いて今春、金剛、観世、宝生の四流家元が演じる



興福寺伽藍春日社境内絵図 1708年(宝永5)作成の絵図。猿沢池の北方に、南大門、中門、金堂、講堂が一直線上に並び、回廊が中門から金堂左右に巡らされている。金堂、講堂の、中間左右に鐘樓、経蔵があり、講堂を囲んで三面に僧房を配する。講堂の東方には食堂がある。金堂の南東には東金堂と五重塔、西南には西金堂があり、その南に南円堂、北方には回廊に囲まれた北円堂が見られる。1717年(享保2)の焼亡以前の伽藍配置の状態がわかる。

堂などが建立され、光明皇后に当寺に施業院、悲田院を設立した。また興福寺は法相宗の中心の道場とされ、中国唐代に成立した唯識思想研究の法相宗を日本に伝えた二つの系統のうち、元興寺の系統を「南寺伝」というのに対して、興福寺の系統を「北寺伝」という。興福寺における法相宗の学問的伝統は、平安時代から江戸時代に至る間に多くの学者が輩出し、多くの著作をなし、諸宗の学者が多くここに留学し、日本における仏教研究の水準を高め、学山として興福寺の名声があがった。この間、とくに平安時代から鎌倉時代にわたっては、春日版といわれる多くの唯識思想関係の仏典を刊板するなど、優れた文化財を残している。さらに平安時代には、藤原氏の氏神である春日神社を管轄し、藤原氏が栄えるにしたがって社会的、経済的にも隆盛となり、多くの莊園を所有して、一〇世紀には大和一国を寺領とするに至り、南都の四犬寺、七犬寺、十犬寺のなかでも、もっとも有力な寺院とされた。平安末期には僧兵を

置いて鬭争を事とし、彼らが春日の神木を奉じて京都へ強訴に出向いた暴挙は、延暦寺の「山法師」と並んで、「奈良の法師」といわれて恐れられた。

堂塔は平安時代以来幾たびも火災にあつて焼失し、そのつど復興をみたが、一一八〇年（治承四）平重衡による焼き打ちの難はとくに甚だしく、ほとんど全伽藍を焼失し、その復興はなかなか進展しなかつた。鎌倉時代以後、藤原氏の衰退で寺院は減少したが、しかし江戸時代になつてもなお二万一千石を有し、塔頭は一、二院を数えた。一七一七年（享保二）の火災で大半の堂塔を焼失し、その後は復旧せず、また明治維新に際しては春日神社と分離し、寺領は上地を命ぜられ、大乘院、一乗院、喜多院、宝蔵院、鶴学院などの子院は廃寺となつて衰微した。もと二十余万坪もあつた寺域も現在は、奈良公園となつてゐる。

〔文化財〕現存する堂塔のうち、北円堂（国宝）は鎌倉時代の純和様の八角円堂で、内陣須

弥壇上の弥勒菩薩坐像（運慶作）のほか、無著、世親、四天王など国宝の諸像がある。三重塔（国宝）も鎌倉時代のもので、内部には極彩色が施されている。東金堂（国宝）は室町時代に六度目の復興をみたもので、天平の古様式を伝える和様建築であるが、室内には平安初期の四天王像と鎌倉時代の十二神将像、文殊菩薩像、維摩居士像の国宝の諸像を蔵する。猿沢池に影を落とす有名な五重塔（国宝）も室町時代の再建で、約五〇層の高さは京都の東寺（教王護国寺）の塔に次ぎ、日本の現存の仏塔中第二の高さを誇っている。南円堂は江戸中期に再建された八角円堂であるが、鎌倉時代の不空絹索・観音（康慶作・国宝）を本尊とし、西国三十三所第九番札所となっており、法相六祖像（国宝）を安置した。中金堂は江戸末期の仮建築で、平安末期の四天王像、鎌倉時代の阿弥陀仏坐像、千手観音立像などを安置した。八角円堂の本尊弥勒三尊像を除く前記諸堂の仏像は、一九五九年（昭和三四）食堂跡に開館した国宝館に移座され、展覧されている。そのほか天竜八部衆像（とく）に阿修羅像が有名、釈迦十大弟子像などとも西金堂に安置されていた乾漆像や、梵鐘、鎮壇具、板彫十二神将立像、金銅燈籠、天燈鬼・竜燈鬼像などの工芸品、『日本書紀』などの古写本（以上国宝）、また『僧綱補任』六巻、『興福寺別当次第』六巻などの文書を収蔵しており、同寺の国宝、国の重要文化財はおびただしい数にのぼる。●阿修羅

に大和国では数・量とともに東大寺など他の寺院・権門を圧倒した。また、大和国司兼守護たる当寺は同国内のすべての荘園・公領に土打役などに、多数の末寺も荘園同様の財源であり、関所・商工業座からの収益も少なくなかった。

れも国の重要文化財で、媽祖堂などが建つ。本堂は大雄宝殿とよばれ、純唐風の堂として貴重で、隠元禪師の扁額を掛ける。『里道德雄』

ジョン・ロックは、人の自然状態でもつ自然法として「生命・自由・財産 The Pursuit of Happiness」の保障を掲げたが、バーギニアの権利章典やアメリカの独立宣言では、これを「生命・自由・幸福追求」と広げて宣言した。日本国憲法はこれを受け継いだものである。語の由来は明らかであるが、「幸福」という漠然とした価値を追求する権利の内容については、さまざまな議論がある。たとえば、規定の置かれた位置とも関連して、具体的内容をもたない人権の総則規定と解する説に対しては、人権宣言のカテゴリーに未記載の新しい権利を保障するための規定と解する説が対立する。裁判所は、後説により、幸福追求権をプライバシー権・肖像権・環境権などの根拠法条としてとらえることが多い。また、この権利がロックの思想に負うところから、「幸福」は自由権的内容に限られるのか、それとも沿革にはこだわらず、社会権の内容までも含むのかが争われることもある。いずれにしても幸福追求権の行使には、公共の福祉に沿うことが求められている。↓基本的人権

〔興福寺領〕当初の財源には藤原不比等ら施入の本願施入田があったが、奈良時代には官寺に準ずる扱いを受け、食封一〇〇〇戸、墾田二〇〇町などを施入され、また一〇〇町までの墾田を認められた。封戸制の衰退に伴い、中世には種々の形態の荘園群が当寺の経営基盤となった。寺領荘園の大部分は畿内・近国にあり、こと

に大和国では数・量とともに東大寺など他の寺院・権門を圧倒した。また、大和国司兼守護たる当寺は同国内のすべての荘園・公領に土打役などに、多数の末寺も荘園同様の財源であり、関所・商工業座からの収益も少なくなかった。

れも国の重要文化財で、媽祖堂などが建つ。本堂は大雄宝殿とよばれ、純唐風の堂として貴重で、隠元禪師の扁額を掛ける。『里道德雄』

ジョン・ロックは、人の自然状態でもつ自然法として「生命・自由・財産 The Pursuit of Happiness」の保障を掲げたが、バーギニアの権利章典やアメリカの独立宣言では、これを「生命・自由・幸福追求」と広げて宣言した。日本国憲法はこれを受け継いだものである。語の由来は明らかであるが、「幸福」という漠然とした価値を追求する権利の内容については、さまざまな議論がある。たとえば、規定の置かれた位置とも関連して、具体的内容をもたない人権の総則規定と解する説に対しては、人権宣言のカテゴリーに未記載の新しい権利を保障するための規定と解する説が対立する。裁判所は、後説により、幸福追求権をプライバシー権・肖像権・環境権などの根拠法条としてとらえることが多い。また、この権利がロックの思想に負うところから、「幸福」は自由権的内容に限られるのか、それとも沿革にはこだわらず、社会権の内容までも含むのかが争われることもある。いずれにしても幸福追求権の行使には、公共の福祉に沿うことが求められている。↓基本的人権

賦償還制によって発行するのは、財政負担の平準化を図るためである。反面、この制度は運用しだいで安易な財政支出につながる危険性があるので、その発行にあたっては特別に制定された根拠法が必要である。第二次世界大戦後では、農地改革のときに旧地主に交付された農地証券、戦没者の遺族に交付された遺族国庫債券、外地からの引揚者に交付された引揚者国庫債券などがある。交付公債は、記名式、譲渡禁止、割賦償還制であって、償還期間は通常五年ないし一〇年である。なお、交付公債を担保として国民金融公庫などから担保融資を受けることもできる。

合武三島流

こうぶさんとうりゅう 近世兵学

の一流派で、船軍術と火薬術にその特色がある。流祖森重頼(重頼)由(一七五九—一八二六)は周防国末武(山口県下松市)の人で、初め安盛流、中島流などの砲術を学び、ついで紀州藩士橋爪万右衛門維成の始めた兵学、橋爪流合武伝法(合武流)、および中世瀬戸内海賊として活躍した能島・因島・米島三島の村上水軍の海戦術を集めた古術三島流を修め、これらに甲州流、越後流などの兵学を加味して、一七九五年(寛政七)『合武三島流船戦要法』を編述し、これを根本伝書として一流をたて、江戸で教授した。入門者は相次ぎ、一八〇三年(享和三)幕府に認められて御書院組与力に登用された。なお砲術の分野では森重流を称した。〈渡辺 郎〉

香附子

こうぶし 〇ハマスゲ

広布種 こうぶしゅ 種の分布域が全世界的に広い生物のことで、普通種、コスモポリタン cosmopolitan ともいう。生態的耐性域の幅が広く、複数の大陸、複数の気候帯などにまたがって分布する。特定の環境条件との結び付きが強い極相性の種には少なく、裸地のほか、攪乱が絶えず加わる路傍、荒地地、都市の立地などに生育するパイオニア的(先駆的)で、種子散布能力が大きい種に多い。植物ではオオバコ、スズメノカタビラなどの雑草、ヨシ、ガマなどの水生植物、コナシ、グンバイヒルガオなどの海岸植物があり、動物ではイエバエ、ネズミ類などの都市型動物がある。

講武所

こうぶしよ 幕末期、江戸幕府が軍制改革の一環として設置した軍事の訓練機関。外

庄に対する軍制改革を進めるなかで、幕府は一八五五年(安政二)講武場を創設して、旗本以下の面々に武芸・砲術をはじめとする軍事訓練

を行うことを布告したが、その後、この講武場を講武所と改め、翌五六年、築地鉄砲洲に講武所を竣工させた(のち深川越中島にも訓練場を設置)。開業は同年四月一三日。講武所規則

覚書を公示し、入所手続などを定め、将来は陪臣や浪人にも開放するとした。開業には將軍徳川家定が老中以下を率いて臨み、以後、幕府の武芸・洋式訓練・砲術などが盛んになった。のち鉄砲洲の構内に軍艦操練所が設けられたため、講武所は六〇年(万延二) 神田小川町に移され、六六年(慶応二) 一一月陸軍所と改称された。教授として、剣術の男谷精一郎・伊庭軍兵衛・榊原鍵吉・桃井春蔵、槍術の高橋泥舟、砲術の下曾根金三郎・高島秋帆・勝海舟ら当代の大家が選ばれた。

工部省

こうぶしょう 明治初年の殖産興業政策担当の中心官庁。一八七〇年(明治三

閏一〇月、「百工勸奨」を目的として設置。鉱山、製鉄、造船、灯台、鉄道、電信などの諸分野の官営事業を推進し、また工部寮(のち工部大学校)を設け外国人教師(教頭はイギリス人ダイエル)を招いて近代技術の移植、技術者の養成と近代産業の育成に努めた。工部卿としては伊藤博文、井上馨、山田顕義などが歴任。八〇年に官営事業を払い下げ政府方針が決定され、八四年ごろから鉄道、電信などを除く工部省諸事業の払下げが開始されたが、工部省自身も八五年一二月の内閣制度設立の際に廃止された。↓殖産興業政策

工部大学校

こうぶだいがっこう 日本最初の工部教育機関。東京大学工部部の前身。工部省

工部寮が一八七七年(明治一〇)改称したもので、工作局長大島圭介が総理となった。工部寮は一八七一年、伊藤博文・山尾庸三の建議に基づいて設置され、七三年、機械工学者ダイエルほか八人のイギリス人教師を招いて開校、工学部頭は山尾、教頭はダイエルであった。土木、機械、造家、電信、化学、冶金、鉱山の七学科をもつ六年制の官費の専門学校で、学理面と実地面とを融合した。当時世界でも進歩的な工部教育機関であった。工部大学校は七九年に最初の卒業生一九人を出し、八二年に造船科を増設、八五年工部省廃止に伴い文部省に移管され、翌年東京大学工学部と合併し、帝国大学工科大学となった。辰野金吾、高峰譲吉、藤岡市助、井口在屋ら明治の工学界・産業界の指導者・技術者を輩出した。

〈菊池俊彦〉

公物

こうぶつ 国または地方公共団体等の行政主体により直接、公の目的に供用される

個々の有体物をいう。所有権の所在を問わない。その種類としては、直接、一般公衆の共同使用に供される公共用物(道路、河川、公園、海浜など)と、直接には国、公共団体の公用に供される公用物(官公署の建物、国・公立学校の建物など)、自然の状態においてすでに公用に供しうべき実体を備えるのを通常とする自然公物(河川、海浜など)と、行政主体が人工を加え、かつ意思的にこれを公の用に供することにより初めて公物となる人工公物などの区別がある。

公物は直接、公用または公共用に供されるといふ目的を達成するために、国有財産法、地方自治法第二三八条の四、河川法、道路法、海岸法、港灣法、都市公園法など特別な法律の適用を受ける。特殊の規定がなければ私法の適用を受けるのが原則であるが、解釈上争いの生ずることが少なくない。まず、公物は公の目的を達成するため所有権の設定なり移転について制限されることがある。公物が取得時効の対象となるかどうかについてはかつては否定されていたが、今日では肯定するのが判例である。公物の範囲については特別法で行政処分により決することができるとされていることがあり、公物保全の見地から公物の隣地の利用が制限(河川保全区域等)されることがある。公物の設置管理に瑕疵がある場合には、公務員の過失の有無を問わず、公物の設置管理者または費用負担者が賠償責任を負う(国家賠償法二条・三条)。

公物の使用関係には次の三つの種類がある。公共用物の一般(自由、普通)使用とは、本来他人の共同利用を妨げない限度において許可を要することなく自由に使用することをいう。道路の通行、公園の散策、海水浴のための海浜の使用、河川における水泳・洗濯などがその例である。公用物はおもと官庁の利用に供されるが、現実には国立学校構内の自由通行のよう自由使用が認められることがある。

許可使用とは、公物の使用が公共の安全と秩序に支障を及ぼすのを防止し、または多数人の同時使用を調整するために、一般には自由な使用を制限し、特定の場合にその制限を解除するもので、公安条例や道路交通法によるデモ行進の許可がその例である。特許使用とは、特定人に使用権を設定するもので、道路に電柱を建

て、ガスを埋設し、軌道を敷設し、河川にダムを建設し、官庁内に食堂や理髪店を設置するのがその例である。

鉱物

こうぶつ mineral 天然に産する、

ほぼ一定の化学組成と、ほぼ一定の原子配列をもつ物質であって現在生命力をもたないもので、少数の例外(水銀、水)を除いて常温で固体である。

〔種類の数〕一九八四年(昭和五九) 六月末日現在、世界全体で約三四〇〇種、日本で約八五〇種が知られており、年平均六〇ないし八〇種増加している。

〔分類法〕類別した各類に重複した配置を許す非系統分類と、重複しない系統分類とが可能である。前者には、たとえば成因的分類、応用的分類などがあり、後者には、結晶学的分類、化学的分類などがある。

〔現行の分類〕現在用いられている分類は、化学的分類に結晶学的性質を考慮したもので、定義において、化学組成と原子配列が重視されていることに対応している。最初の提唱者はスウェーデンのベルツェリウス(J. Berzelius (一七九一—一八六八))で、その後幾多の改良を経て、いまでは西ドイツのシュトルツ H. Strunz (一九〇一—) によるものが世界的にもっとも広く用いられている。ここではこれをさらに改良した筆者の分類を紹介する。

まず鉱物全体を次の四つの類に大別する。(1) 基本的に単一種の元素からなる鉱物。(2) 基本的に二種の、性質の異なる元素からなる化合物の鉱物(有機鉱物は除く)。(3) 基本的に三種の元素からなり、その一種は酸素であるような化合物の鉱物。(4) 有機鉱物の有機的な作用の産物であるが、現在生命力を有しないもの。これらの類を構成するものは次のとおりである。

- (1) 元素鉱物。
- (2) 硫化鉱物、炭・窒・リン化鉱物、酸化鉱物、ハロゲン化鉱物。
- (3) 炭酸塩鉱物、硼酸塩鉱物、亜セレン酸・亜テール酸塩鉱物、亜砒酸塩鉱物、沃素酸塩鉱物、硫酸塩鉱物、タンクステン酸・モリブデン酸・クロム酸塩鉱物、燐酸・砒酸・バナジン酸塩鉱物、珪酸塩鉱物。
- (4) 有機酸塩鉱物、炭化水素鉱物、炭水化物鉱物など。